

令和3年度 自己評価結果公表シート

社会福祉法人幸輪会
若葉保育園

評価項目の達成・取組み状況・これから改善したいこと

評価項目	取組み状況
I 保育の計画性	社会福祉法人幸輪会の理念に基づいて子どもの自立を促す保育を目標に保育目標を掲げ、年間目標、保育計画を作成している。個々の子供の発達を踏まえ生活の中で、幼児期にふさわしい経験が積み重ねられるように努めている。
II 保育のあり方・子どもへの発達に応じた対応	子どもたちの発達に応じた環境作りに意見を出し合い、部屋の配置替えやコーナー作りにアイデアを出し合い保育を進めていった。 新型コロナウイルス感染予防対策を取りながら、行事など安全な保育ができるように話し合いを進め、子どもたちの成長を促すことができるような保育に努めた。
III 保育者としての資質や能力、良識、適正	保育者として経験の開きがあるが、保育の中でケース会議や、園内研修を行い保育士としての資質向上に努めている。 それぞれの得意分野が発揮できる体制を取りチーム保育がうまく進むように連携を取りながら保育に努めていった。
IV 保護者への対応・支援	コロナ禍の中で保護者との連携をとりながら予防対策、発熱時の対応協力をお願いする声掛けをして、健康管理に努めていった。 保護者に対する守秘義務厳守は周知し守っている。保護者との信頼関係に努め、送迎時には一日の様子を伝え、子どもの成長を共に喜び個別に支援のいる子供に対しては個別に対応して保護者支援に努めている。
V 地域や社会との関わり・地域子育て支援	地域の要請には積極的に参加して、協力するように努めている。 一時保育事業や、里帰り出産の方の受け入れを実施し、子育て支援センターと連携を取りながら地域の子どもの子育て支援に参加している。 市の社会福祉法人主催のプロジェクトにも会員として参加し、今年度は貧困家庭への支援活動に協力できた。
VI 保育者の専門性に関する研修・研究への意欲、態度	県の保育協会、保育士会等の研修がコロナの関係で中止になったりして研修機会は減っているが、オンライン研修などは多くの職員に研修してもらい資質向上につなげた。 市内研修のテーマに沿った研修を進め子どもの成長を見守りながら自己研鑽に努めていった。